



平成 20 年度 文部科学省 質の高い大学教育推進プログラム

エコファーマを担う薬学人育成プログラム

命と環境を守る行動派薬剤師・薬学研究者を目指して

第2回
地域伝承民間薬調査
報告書

平成 23 年 3 月 22 日

熊本大学薬学部

目次

調査概要	2
調査結果	5
1. 系統別のまとめ	14
2. 地域ごとのまとめ	18
3. 効能・効果によるまとめ	22
第1回と第2回の調査を総合して	27
調査に出てきたおもな植物	34

調査概要

目的：

伝承民間薬は、地域に伝わる伝統や文化を背景とする貴重な薬物治療に関する情報である。長い時代を経て有効なものが伝承として残ってきた経緯があるが、最近では殆ど使われなくなり、その貴重な伝承薬の記憶が失われつつある。そこで、エコファーマを担う薬学人育成プログラムの一環として、2009年度に続き、熊本県宇城市に伝わる民間薬の情報を地元住民の方々から聞き取り調査し、記録に残すことを企画した。

地域伝承の民間療法や伝統医薬について聞き取り調査をすることで、薬学と環境との関わりを理解しながら、埋もれている先人の知恵を掘り起こし、伝統医薬研究の推進や健康増進、地域振興に寄与できると期待される。また、新規医薬品開発のヒントを得ることもできるかも知れない。さらには、薬学生が地域社会に出て行って、見ず知らずのご家庭をアポイントメントもなく突然訪問し、初対面の方々から聞き取り調査することで行動力が養われると共に、地域の高齢者の方々と交流することにより、医療人として必要なコミュニケーション能力の向上や労わりのこころも醸成されると期待される。

調査日時：

平成22年7月17日（土）9時～18時30分

調査方法：

宇城市の2つの地域（三角町戸馳島、三角町郡浦地区）に出向き、4～5人ひと組となって、各家庭を飛び込みで訪問したり、田畑で作業中の方や道端で出会った方などから、どのような民間薬を知っているかについてインタビューした。その後、調査結果を持ち寄り、3つのグループに分かれて、1) 系統別、2) 地区別、3) 薬効別に集計した。

本プログラムは、薬学科4年次開講の「漢方概論」の一部として、課外授業（自由参加）の形で実施したが、その他の学科や学年の学生にも参加を呼びかけた。

参加学生：

薬学科4年生： 今田 久美子、川田代 康介、岸本 マミ、園田 祥子、筑葉 晃一、
告 恭史郎、中川 恭弘、野相 まどか、服部 真弓、原 直也、宮地 亜由美
薬学科3年生： 寺田 有希、
創薬・生命薬科学科3年生： 北 愛矢菜
創薬・生命薬科学科1年生： 田中瑞希、桃田崇裕

大学院2年生： 福永千紘

指導教員：

薬用植物学：矢原正治 准教授

生薬・天然物薬物学：池田 剛 准教授

薬物活性学：磯濱洋一郎 准教授

環境分子保健学：白崎哲哉 准教授

アシスタント：

渡邊将人（薬用植物園技術職員）

吉崎光一（大学院薬学教育部 博士後期課程 2年）

Hari Prasad Devkota（大学院薬学教育部 博士前期課程 3年）



図1 参加者メンバー

調査を終えて

スケジュール

9時	薬学部出発
10時30分～12時30分	三角町戸馳島
12時30分～13時30分	昼食休憩
13時30分～16時30分	三角町郡浦地区
18時	薬学部到着・解散

調査地域



調査結果

今回、戸馳島と郡浦地区の2地区合わせて合計44名の方から、175件の情報を聴取することができた。快く調査に協力して頂いた地元の皆様、調査に同行して頂いた宇城市役所の中尾祐次郎様、同じく準備にご尽力頂いた宇城市役所の野村 烈様に心より感謝申し上げます。

まず、調査結果の詳細を班と調査地域毎に表1に示し、続いて項目毎のまとめを示す。表のA～Zは、お答え頂いた方を識別する記号である。



図2

聞き取り調査の様子



表1 調査結果の詳細

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法 (使用法)	効果・効能	効能分類	備考
1	1	戸馳島			カキ	カキノキ科	葉	蒸したものを細かく刻み、乾燥したものを煎じて飲む	降圧作用	循環器 血圧	
2	1	戸馳島			オオバコ	オオバコ科	葉	絞り汁	できものの吸出し	皮膚科 抗菌?	
3	1	戸馳島		キジンソウ	ユキノシタ	ユキノシタ科	葉	絞り汁	耳の痛み	耳鼻科 抗炎症	
4	1	戸馳島		ハブ	エビスグサ	マメ科	葉	絞り汁を患部に塗布	クラゲ、ムカデなどに刺されたときに	皮膚科 抗炎症	
5	1	戸馳島			ダイコン	アブラナ科	実	生もしくはハチミツ漬け	風邪薬として解熱、咳に使う	呼吸器 風邪	
6	1	戸馳島			アロエ	ユリ科	全草	ミキサーにかけ飲む	便秘	消化器 便秘	
7	1	戸馳島			サトイモ	サトイモ科	茎	茎の汁を使う	ハチに刺されたとき	皮膚科 抗炎症	
8	1	戸馳島			ヨモギ	キク科	葉	煎じて飲む	浄血	循環器 血液?	
9	1	戸馳島			ナンテン	メギ科	葉・実	煎液をうがいまたは飲む	のどの痛みに	呼吸器 抗炎症	
10	1	戸馳島			ビワ	バラ科	葉	35° の焼酎につけ患部に塗布	鎮痛	解熱・鎮痛	
11	1	戸馳島			ニガウリ	ウリ科	実	乾燥したものを煎じて飲む	利尿作用による降圧また血糖も下がる	利尿	
12	1	戸馳島			ドクダミ	ドクダミ科	全草	陰干して乾燥したものを煎じて飲む	降圧作用、肌にも効くらしい	循環器 血圧	
13	1	戸馳島			ドクダミ	ドクダミ科	花	焼酎漬け	かゆみ止め	皮膚科 抗炎症	
14	1	戸馳島		ハブ	エビスグサ	マメ科	全草	炒ったものを煎じて飲む	降圧作用	循環器 血圧	
15	1	戸馳島			卵黄	その他	卵黄	ニンニクと混ぜ練り合わせ、丸剤に	滋養強壮	滋養強壮	ニンニクは新鮮なものを使用
16	1	戸馳島			ハウセンカ	ツリフネソウ科	白花	焼酎漬け	虫さされ	皮膚科 抗炎症	
17	1	戸馳島			フキ	キク科	葉	葉をつぶし、汁を出し有精卵の卵白、梅干しの実と練り合わせる	脳梗塞予防	中枢神経(抗血栓)	
18	1	戸馳島			ウメ	バラ科	エキス	ジュースでつぶし、8時間ほど煮詰める	腹痛、下痢	消化器 下痢	耳かき3, 4杯ほど服用
19	1	郡浦		金桁の鉾泉	鉾泉	その他		飲用	胃腸	消化器	
19	1	郡浦		金桁の鉾泉	鉾泉	その他		飲用	皮膚 化膿止め	皮膚科 抗菌	
19	1	郡浦		金桁の鉾泉	鉾泉	その他		飲用	糖尿病	糖尿病	
20	1	郡浦			ドクダミ	ドクダミ科	葉	乾燥したものを煎じて飲む		?	
21	1	郡浦		ハブ	エビスグサ	マメ科	葉	乾燥したものを煎じて飲む		?	
22	1	郡浦		ゲカタワン	不明	不明	全草	煎じて飲む		?	

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法 (使用法)	効果・効能	効能分類	備考
23	1	郡浦			ホウセンカ	ツリフネソウ科	白花	焼酎漬け		?	
24	1	郡浦		ゲンノショウ ユ	ゲンノショウコ	フウロソウ科	全草	陰干して煎じて飲む	胃腸薬	消化器 収斂	
25	1	郡浦			ドクダミ	ドクダミ科	全草	陰干して煎じて飲む	できものができたときに 飲用	皮膚科 抗菌?	
26	1	郡浦			ヨモギ	キク科	葉		血止め	皮膚科 外傷	
27	1	郡浦			ビワ	バラ科	葉			?	
28	1	郡浦			ドクダミ	ドクダミ科	全草	湿らせた新聞紙に包み蒸したものを、化膿部位に穴をあけ、その上に貼付	化膿やおできなどの きものに	皮膚科 抗菌	
29	1	郡浦			アロエ	ユリ科	全草	切って貼付	火傷	皮膚科 火傷	
30	1	郡浦			アロエ	ユリ科	葉	絞り汁と黒砂糖を煮詰めて飲む	肝臓	消化器 肝臓	
31	1	郡浦			ヨモギ	キク科	全草	もんで泥状にして傷口に貼付	傷全般	皮膚科 外傷	
32	1	郡浦			ネギ	ユリ科	葉	味噌と混ぜ、お湯で割って飲む	風邪	呼吸器 風邪	
33	1	郡浦			ショウガ	ショウガ科	地下茎	ハチミツに漬け、お湯で割り、お茶の ようにして飲む	風邪	呼吸器 風邪	
34	1	郡浦			ビワ	バラ科	葉	煎じて飲む		?	
35	1	郡浦			ヨモギ	キク科	葉				
36	1	郡浦			ドクダミ	ドクダミ科	地上部	煎じて飲む	利尿剤	利尿	
37	1	郡浦		サルノコシカ ケ	サルノコシカケ	サルノコシカケ 科	菌体		血行促進	循環器 血液?	
38	1	郡浦		鉦泉	鉦泉	その他		飲用	神経痛	鎮痛?	
38	1	郡浦		鉦泉	鉦泉	その他		飲用	胃腸	消化器	
39	1	郡浦			アロエ	ユリ科	葉	食べる・かむ	胃	消化器 健胃	
40	1	郡浦			アロエ	ユリ科	葉	泥状にして貼付	火傷	皮膚科 火傷	
41	1	郡浦			カキ	カキノキ科	葉	陰干して乾燥したものを煎じて飲む	降圧	循環器 血圧	
42	1	郡浦			ヨモギ	キク科	葉	傷口に塗布	血止め	皮膚科 外傷	
43	1	郡浦			ドクダミ	ドクダミ科	葉	風呂に入れる	皮膚全般	皮膚科	
44	2	戸馳島	AB		センニンソウ	キンポウゲ科	葉	葉をもみ、汁を出して手首に貼る	咳止め	呼吸器 鎮咳	試してみたところ、 大きな水ぶくれが出 来た
45	2	戸馳島	AB		ドクダミ	ドクダミ科	葉			呼吸器?	

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法 (使用法)	効果・効能	効能分類	備考
46	2	戸馳島	AB		ユキノシタ	ユキノシタ科	葉		耳の治療	耳鼻科 抗炎症	
47	2	戸馳島	C		ホウセンカ	ツリフネソウ科	花(白)	白い花を30度くらいの焼酎につける	虫刺され	皮膚科 抗炎症	ホウセンカの白い花がない場合はドクダミの花でもOK つけておくと梅酒のような色になる
48	2	戸馳島	C		ウメ	バラ科	実	梅エキス	腹痛	消化器 胃痛	
49	2	戸馳島	D		ドクダミ	ドクダミ科	葉			?	
50	2	戸馳島	D		サクラ	バラ科	皮	皮を削り干す	咳止め	呼吸器 鎮咳	
51	2	戸馳島	D		ヨモギ	キク科	葉		血止め	皮膚科 外傷	
52	2	戸馳島	D		マツ	マツ科	葉	煎じて飲む		?	
53	2	戸馳島	D		ウメ	バラ科	実	梅エキス(黒くなるまで炊き出す)	胃が痛いとき、下痢	消化器 下痢	
54	2	戸馳島	E		アロエ	ユリ科	葉			?	
55	2	戸馳島	E		カキ	カキノキ科	葉		漬物の塩気を取る	料理?	
56	2	戸馳島	E		ヨモギ	キク科	葉	つぶして塗る	すり傷	皮膚科 外傷	
57	2	戸馳島	F		ドクダミ	ドクダミ科	葉			?	
58	2	戸馳島	F		ヨモギ	キク科	葉	揉んでつける	切り傷	皮膚科 外傷	
59	2	戸馳島	F		海藻	不明		傷口にすり込む	切り傷	皮膚科 外傷	海で怪我したとき
60	2	戸馳島	F		アマチャヅル	ウリ科	地上部	煎じて飲む		?	
61	2	戸馳島	G		クチナシ	アカネ科	実・花	クチナシの実をすりつぶし、卵黄・大葉・小麦を混ぜ合わせる	打撲	皮膚科 抗炎症	
62	2	戸馳島	G		クチナシ	アカネ科	実		すり傷、あかぎれ、しもやけ	皮膚科 外傷	
63	2	戸馳島	G		ドクダミ	ドクダミ科	葉	ゲンバショウコ、センバショウコ、フツの根と一緒に煮る	健康維持	滋養強壮	
64	2	戸馳島	G		ナンテン	メギ科	葉	食べる	喉の痛み	呼吸器 抗炎症	苦い
65	2	戸馳島	G		ユキノシタ	ユキノシタ科	地上部	すり鉢ですって汁を飲む	熱さまし	解熱・鎮痛	苦いので子どもには砂糖を入れたりした
66	2	戸馳島	G		ダイコン	アブラナ科	根茎	腰に貼る	腰痛、ぎっくり腰	抗炎症	
67	2	戸馳島	G		ダイコン	アブラナ科	根茎	絞り汁を茶碗一杯分飲んで寝る	風邪	呼吸器 風邪	翌朝すっきり
68	2	戸馳島	G		ダイダイ	ミカン科	果実	絞る		?	

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法 (使用法)	効果・効能	効能分類	備考
69	2	戸馳島	G		ハコベラ・ニラ・ニンニク	ユリ科	不明		ヒヨコの元気がないとき	家畜薬	
70	2	郡浦	H		ゲンノショウコ	フウロソウ科	地上部		お腹の調子が悪いとき	消化器 収斂	
71	2	郡浦	H		モモ	バラ科	葉		汗疹	皮膚科 抗菌	
72	2	郡浦	H		ドクダミ	ドクダミ科	葉	塩もみ	汗疹	皮膚科 抗菌	
73	2	郡浦	I		ニワトコ?	不明	葉・茎	葉を干し、煎じて飲む	血糖値を下げる(下げすぎない)	糖尿病	干すとあくがなくなる、煎じるとコーヒー色になる。宮崎日南の里山から持ってきた。万能薬として知られている
74	2	郡浦	I		タマネギ	ユリ科	皮	煎じて飲む	血糖値を下げる(下がりすぎる)	糖尿病	
75	2	郡浦	I		オニアザミ	キク科	根	乾燥	胃腸	消化器	
76	2	郡浦	I		ヨモギ	キク科	根		胃腸	消化器	
77	2	郡浦	?		ドクダミ	ドクダミ科	地上部				
78	2	郡浦	?		ユキノシタ	ユキノシタ科	葉		痛み	?	
79	2	郡浦	?		ヨモギ	キク科	葉	揉んでつける	血止め	皮膚科 外傷	
80	2	郡浦	I		ニワトコ?	不明	葉	干して煎じて飲む	利尿	利尿	
80	2	郡浦	I		ニワトコ?	不明	葉	干して煎じて飲む	血糖値を下げる	糖尿病	
81	2	郡浦	I		ゲカタワシ?	不明	葉		利尿(男)	利尿	
82	2	郡浦	I		オトギリソウ	オトギリソウ科	地上部		利尿	利尿	
83	2	郡浦	J		ドクダミ	ドクダミ科	葉	妊娠しているときに皮膚を強くしようと 思っていた		皮膚科	
84	2	郡浦	J		ナンテン	メギ科	果実			?	
85	2	郡浦	J		ヨモギ	キク科	葉	お風呂に入れる		?	
86	2	郡浦	J		ヘビイチゴ	バラ科	実	焼酎につける	虫刺され	皮膚科 抗炎症	
87	2	郡浦	J		リンドウ	リンドウ科	地上部			?	
88	2	郡浦	J		カエル (赤)	その他		食べる		?	
89	2	郡浦	J		白い虫	不明	全虫	焼いて食べる	かんのむし(夜鳴き)	かんのむし	
90	2	郡浦	J		油揚げ	その他		ハゼなどでかぶれた部分に塗って、 その後は焼いて食べる		皮膚科 抗炎症	

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法 (使用法)	効果・効能	効能分類	備考
91	2	郡浦	J		マムシ	クサリヘビ科	皮	竹に刺し乾かしたものを切り傷に貼る	切り傷	皮膚科 外傷	
92	2	郡浦	J		マムシ	クサリヘビ科	実	粉にして食べる	食欲がないとき	消化器 健胃	
93	2	郡浦	J		黒へび	不明			結核の薬になる	呼吸器 結核	
94	2	郡浦	J		ウメ	バラ科	実	梅エキス(煮詰めて飲む)	腹痛	消化器 胃痛	
95	3	戸馳島	K	彼岸花	ヒガンバナ	ヒガンバナ科	根	すり潰し、ひまし油と混ぜる	膝の痛み	鎮痛	
96	3	戸馳島	K	どくだみ	ドクダミ	ドクダミ科	葉	煎じる	腹の不調	消化器	
96	3	戸馳島	K	どくだみ	ドクダミ	ドクダミ科	葉	煎じる	できもの	皮膚科 抗菌?	
97	3	戸馳島	K	麒麟草	キリンソウ	ベンケイソウ科	葉	すり潰す	腹の不調	消化器	
98	3	戸馳島	K	クチナシ	クチナシ	アカネ科	果実	すり潰し、卵・小麦とともにねる	手が折れかけたときに使用した	抗炎症?	
99	3	戸馳島	K	タテ貝の殻	タテ貝の殻	不明	殻	彼岸花の根と共にすり潰し、小麦粉と混ぜる。	膝の痛み	鎮痛	
100	3	戸馳島	K	オオバコ	オオバコ	オオバコ科	種子	シャゼンシ、シャゼンソウ		?	
101	3	戸馳島	K	ウコン	ウコン	ショウガ科	根	乾燥させたものを煎じる。	肝臓に良い。	消化器 肝臓	
102	3	戸馳島	K	サルノコシカケ	サルノコシカケ	サルノコシカケ科	菌体	煎じて粉にする。	肺に良い。	呼吸器	
103	3	戸馳島	K	梅焼酎	ウメ	バラ科	果実		腹痛に効く。	消化器 胃痛	
104	3	戸馳島	K	ハブ茶	エビスグサ	マメ科	葉	生の葉を揉んで患部に塗る。	エイに刺された時。ギユウギユウ(?), オコゼにも。	皮膚科 抗炎症	
105	3	戸馳島	L	おしろい花	オシロイバナ	オシロイバナ科	花	45度以上の焼酎に漬ける。	できもの	皮膚科 抗菌?	
106	3	戸馳島	L	ハブ茶	エビスグサ	マメ科	葉	葉を揉んで塗る。	エイに刺された時。	皮膚科 抗炎症	
107	3	戸馳島	L	ハブ茶	エビスグサ	マメ科	豆	乾燥させて、炒って煎じる。	飲んでいると蚊に刺されても痒くならない。腫れない。	皮膚科 抗炎症	
108	3	戸馳島	M	ハブ茶	エビスグサ	マメ科	葉	葉を揉んで塗る。	虫・蜂・ムカデ・エイなどに刺された時。	皮膚科 抗炎症	
109	3	戸馳島	M	ハブ茶	エビスグサ	マメ科	地上部	ミキサーで砕いて薬用アルコール(70%の消毒用)につける。	虫・蜂・ムカデ・エイなどに刺された時。	皮膚科 抗炎症	
110	3	戸馳島	M	ハブ茶	エビスグサ	マメ科	豆	乾燥させて、炒って煎じる。	便秘にも効く。のどが痛いときは砂糖を溶かして飲むと良い。	消化器 下痢	
111	3	郡浦	N	よもぎ	ヨモギ	キク科	葉	石ですり潰す。	怪我	皮膚科 外傷	

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法（使用法）	効果・効能	効能分類	備考
112	3	郡浦	N	ユキノシタ	ユキノシタ	ユキノシタ科	葉	あぶって患部に。	火傷	皮膚科 火傷	
113	3	郡浦	N	センブリ	センブリ	リンドウ科	地上部	お茶		？	
114	3	郡浦	N	クコの実	クコ	ナス科	実	煎じる。	滋養強壮	滋養強壮	
115	3	郡浦	N	鉾泉(日田天領水も)	鉾泉	その他		飲む。	胃腸に良い。貧血。	消化器	
115	3	郡浦	N	鉾泉(日田天領水も)	鉾泉	その他		飲む。	胃腸に良い。貧血。	循環器 血液	
116	3	郡浦	O	よもぎ	ヨモギ	キク科	葉	揉む。	怪我して出血の際に。	皮膚科 外傷	
117	3	郡浦	O	じゃがいもと卵	ジャガイモ	ナス科				？	
118	3	郡浦	P	よもぎ	ヨモギ	キク科	葉	揉む。	切り傷の消毒、傷の回復	皮膚科 外傷	
119	3	郡浦	P	アロエ	アロエ	ユリ科	葉	アロエの汁	切り傷の消毒、傷の回復	皮膚科 外傷	
120	3	郡浦	P	マムシ	マムシ	クサリヘビ科		酒に漬ける。	切り傷の消毒、傷の回復	皮膚科 外傷	
121	3	郡浦	P	赤ムカデ	ムカデ	ムカデ科	動物	油に漬ける。	切り傷の消毒、傷の回復	皮膚科 外傷	
123	3	郡浦	P	アンモニア	アンモニア	その他		患部にかける。	蜂毒の解毒。傷の痛み止め。	皮膚科 抗炎症	
124	3	郡浦	P	どくだみ	ドクダミ	ドクダミ科	ジュウヤク	揉む。	切り傷の消毒、傷の回復	皮膚科 外傷	
125	3	郡浦	P	オオバコ	オオバコ	オオバコ科	シャゼンシ、シャゼンソウ	揉んで小麦粉と混ぜる。	捻挫に。	抗炎症	
126	3	郡浦	P	梅干し	ウメ	バラ科	果実	こめかみにつける。	頭痛の緩和	解熱・鎮痛	
127	3	郡浦	P	鉾泉	鉾泉	その他			胃腸の回復	消化器	
128	3	郡浦	Q	よもぎ	ヨモギ	キク科	葉	揉む。	傷に。	皮膚科 外傷	
129	3	郡浦	Q	どくだみ	ドクダミ	ドクダミ科	地上部	お茶に。		？	
130	3	郡浦	R	よもぎ	ヨモギ	キク科	葉			？	
131	3	郡浦	R	どくだみ	ドクダミ	ドクダミ科	地上部			？	
132	3	郡浦	S	つくし	スギナ	トクサ科	新芽	煎じて飲む。		？	
133	3	郡浦	S	大葉	シソ (アオジソ)	シソ科	葉	土鍋で煎じる。		？	
134	3	郡浦	S	紫の実をつける雑木	不明	不明	茎	煎じる	肝硬変だったお父さんが飲んでいた。	消化器 肝臓	

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法（使用法）	効果・効能	効能分類	備考
135	3	郡浦	T	どくだみ	ドクダミ	ドクダミ科	地上部	干して。		？	
136	3	郡浦	T	よもぎ	ヨモギ	キク科	葉	揉んで。	止血、蚊取り、食用(よもぎもち)	皮膚科 外傷	
137	3	郡浦	T	ウコン	ウコン	ショウガ科	根	煎じる。	胃薬	消化器	
138	3	郡浦	T	ハブ茶	エビスグサ	マメ科	葉	煎じる。	熱中症の予防にも。	熱中症	
139	3	郡浦	T	サルノコシカケ	サルノコシカケ	サルノコシカケ科	菌体		がんに効く。	抗腫瘍	
140	3	郡浦	T	イチジク	イチジク	クワ科	実	食べる。	痔、いぼ。	皮膚科 いぼ	
141	3	郡浦	T	ホウセンカ(ツマグロ)	ホウセン	ツリフネソウ科	白い花	花を焼酎につける。	皮膚の消毒	皮膚科 抗菌	
142	3	郡浦	T	びわ	ビワ	バラ科	葉	葉の裏の毛をとって。		？	
143	3	郡浦	T	クコ	クコ	ナス科	実	赤い実を焼酎につける		？	
144	3	郡浦	T	ヘビイチゴ	ヘビイチゴ	バラ科	実	赤い実を焼酎につける		？	
145	3	郡浦	T	ゲンノショウコ	ゲンノショウコ	フウロソウ科	地上部		腹痛	消化器	
146	3	郡浦	T	つくし	スギナ	トクサ科	枝、葉	胞子をとり除き、お茶にする	お茶代わり	飲用	
148	4	戸馳島	U		ドクダミ	ドクダミ科	葉・茎	茎・葉を石などで潰し、汁を傷口に直につける	けがの治療	皮膚科 外傷	
149	4	戸馳島	U	フツフツ	ヨモギ	キク科	葉・茎			食用	
150	4	戸馳島	V		ドクダミ	ドクダミ科	葉・茎・根	つわの葉に包んで火であぶり、ドロドロにしてでき物につける	ニキビなどのできものや傷の膿を出す	皮膚科 抗菌	
151	4	戸馳島	V		ドクダミ	ドクダミ科	地上部	乾燥させたものをお風呂に入れる		？	
152	4	戸馳島	V		ゲンノショウコ	フウロソウ科	葉	煎じて、飲む	下痢の改善	消化器 収斂	
153	4	戸馳島	W		ユキノシタ	ユキノシタ科	葉			？	
154	4	戸馳島	W		ナンテン	メギ科	葉	葉を洗い、ミキサーにかけ、蜂蜜を加え飲む	喘息、アトピー	呼吸器 喘息	
154	4	戸馳島	W		ナンテン	メギ科	葉	葉を洗い、ミキサーにかけ、蜂蜜を加え飲む	喘息、アトピー	皮膚科 抗炎症	
155	4	戸馳島	W		ビワ	バラ科	葉	産毛を取り、水で煮沸して汁を飲む	アトピー、癌	皮膚科 抗炎症	
155	4	戸馳島	W		ビワ	バラ科	葉	産毛を取り、水で煮沸して汁を飲む	アトピー、癌	抗腫瘍	
156	4	戸馳島	W		ヨモギ	キク科	葉	葉を揉んで、汁をつける	血止め	皮膚科 外傷	
157	4	戸馳島	W		ドクダミ	ドクダミ科	葉	乾燥して、煎じて飲む	下痢	消化器 収斂	

No.	班	地域	聴取	俗名	一般名	植物分類	使用部位	調製法（使用法）	効果・効能	効能分類	備考
158	4	戸馳島	X		ドクダミ	ドクダミ科	葉	煎じて飲む	おでき	皮膚科 抗菌	
159	4	戸馳島	X		ヨモギ	キク科	葉	揉んで鼻に入れる	鼻血	耳鼻科 鼻血	
160	4	戸馳島	X		ヨモギ	キク科	葉	揉んで汁をつける	傷口	皮膚科 外傷	
161	4	郡浦	T		ドクダミ	ドクダミ科	地上部			？	
162	4	郡浦	T		ウコン	ショウガ科	根	煎じて飲む		？	
164	4	郡浦	T		ヨモギ	キク科	葉	干してから燃やす	虫除け	虫よけ	
165	4	郡浦	T		クコ	ナス科	実	焼酎につける	傷口につける	皮膚科 外傷	
166	4	郡浦	T		スギナ	トクサ科	地上部	干してお茶にして飲む		？	お茶の代わりとして
167	4	郡浦	T		ユキノシタ	ユキノシタ科	葉	すり鉢ですって、そのまま耳に入れる	外耳炎、内耳炎	耳鼻科 抗炎症	食べ物(フライ)
169	4	郡浦	T		イチジク	クワ科	果実	食べたり、付けたりする	いぼ、痔	皮膚科 いぼ	
170	4	郡浦	Y	ヨモギ	ヨモギ	キク科	葉	葉をもんで傷口に付ける	傷薬	皮膚科 外傷	
171	4	郡浦	Y	ハブソウ	エビスグサ	マメ科	葉	新芽をもんで刺されたカ所につける	虫さされ	皮膚科 抗炎症	
172	4	郡浦	Y	ユキノシタ	ユキノシタ	ユキノシタ科	葉	生の葉をミキサーで砕きお茶にして飲む	血圧降下	循環器 血圧	
173	4	郡浦	Y	アロエ	アロエ	ユリ科	葉	果肉を傷口に付ける	やけど	皮膚科 火傷	
174	4	郡浦	Z		チドメグサ	セリ科	葉	葉をそのまま傷口につける	止血	皮膚科 外傷	
175	4	郡浦	Z		ヨモギ	キク科	葉	葉をもんで傷口につける	傷、膿	皮膚科 外傷	

1. 系統別のまとめ

今回の調査で抽出された民間薬 180 種のうち、植物由来が 165 種、植物以外は 15 種で、植物のほうが民間薬として圧倒的に多く用いられていた。

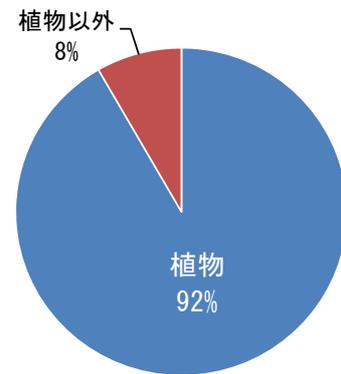


図3 植物由来民間薬の割合

植物について科名ごとに分類すると、キク科 26 件 (14.4%)、ドクダミ科 26 件 (14.4%) が最も多い。次いでバラ科 16 件 (8.9%)、マメ科 12 件 (6.7%)、ユリ科 11 件 (6.1%) の順で使用頻度が高く (図 4)、種類別ではドクダミ、ヨモギ、エビスグサ、キジンソウ、ゲンノショウコが多い (表 2)。

昨年多かったシソ科、ミカン科、サトイモ科は、少なかった。

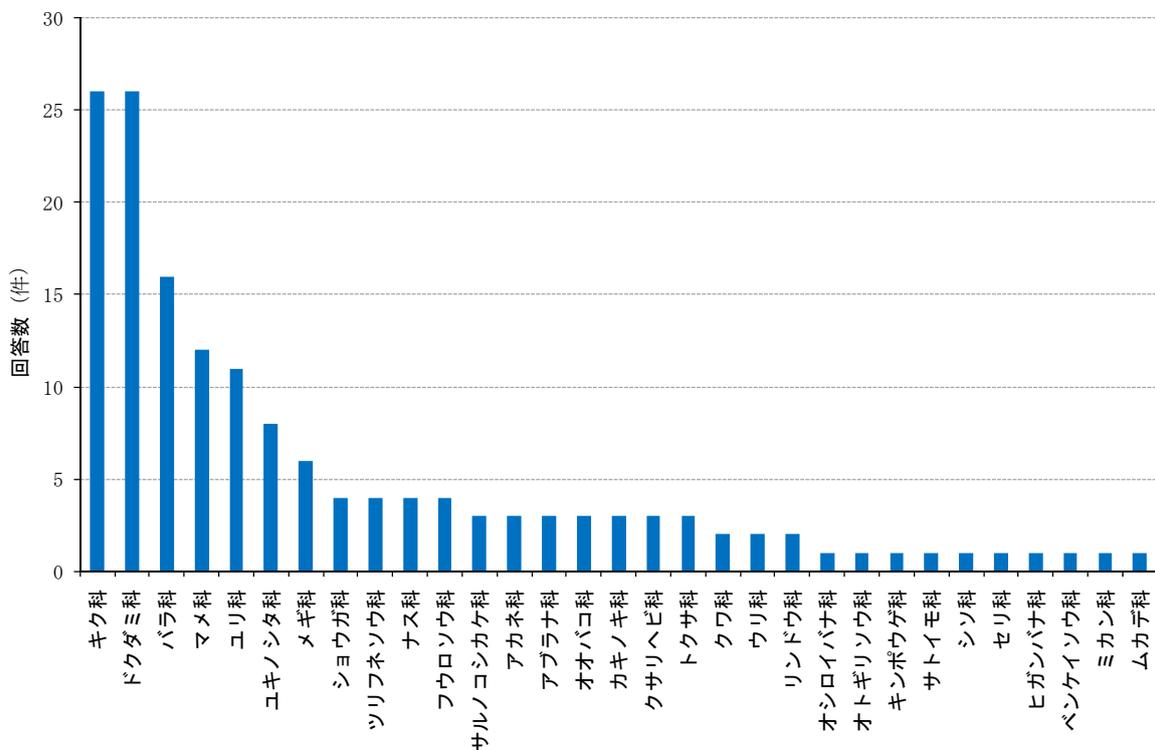


図4 系統別頻度分布

表2 系統別のくまとめ

動植物科名	件数	内訳(件数)
キク科	26	ヨモギ(18)、ガイヨウ(6)、フキ(1)、オニアザミ(1)
ドクダミ科	26	ドクダミ(26)
バラ科	16	ビワ(6)、ウメ(6)、ヘビイチゴ(2)、モモ(1)、サクラの木(1)
マメ科	12	エビスグサ(12)
ユリ科	11	アロエ(7)、タマネギ(1)、ネギ(1)、ロカイ(1)、ハコベラ・ニラ・ニンニク(1)
ユキノシタ科	8	キジンソウ(8)
メギ科	5	ナンテン(3)、シロナンテン(2)
ショウガ科	4	ウコン(3)、ショウガ(1)
ツリフネソウ科	4	ホウセンカ(4)
ナス科	4	クコ(3)、ジャガイモ(1)
フウロソウ科	4	ゲンノショウコ(4)
サルノコシカケ科	3	サルノコシカケ(3)
アカネ科	3	クチナシ(3)
アブラナ科	3	ダイコン(3)
オオバコ科	3	オオバコ(3)
カキノキ科	3	カキ(3)
クサリヘビ科	3	マムシ(3)
トクサ科	3	スギナ(3)
クワ科	2	イチジク(2)
ウリ科	2	アマチャズル(1)、ニガウリ(1)
リンドウ科	2	センブリ(1)、リンドウ(1)
オシロイバナ科	1	オシロイバナ(1)
オトギリソウ科	1	オトギリソウ(1)
キンポウゲ科	1	センニンソウ(1)
サトイモ科	1	サトイモ(1)
シソ科	1	シソ(1)
セリ科	1	チドメグサ(1)
ヒガンバナ科	1	ヒガンバナ(1)
ベンケイソウ科	1	キリンソウ(1)
ミカン科	1	ダイダイ(1)
ムカデ科	1	ムカデ(1)
その他	15	鉾泉(8)、卵黄(1)、油揚げ(1)、海草(1)、たて貝の殻(1)、黒へび(1)、カエル(1)、アンモニア(1)
不明	7	ニワトコ(3)、その他

平成 21 年度の調査では、ドクダミ (10.4%)、キクカ、アロエ (6.1%)、ヨモギ (5.5%)、ゲンノショウコ、ウメ (4.9%) が多く、キクカを除き、今年度の調査でも多く用いられていた。全国的に親しまれている民間薬はやはり地域によらず、使用頻度が高いことと推察される。そのほか植物分類以外の民間薬としては鉱泉、マムシなどがあった。特に鉱泉は郡浦に泉源があり入手が容易で健康増進を目的に飲用されているようであった。

ところで、調査で抽出された民間薬のなかには上記のように普遍的なものだけではなく、地域に特徴的なものもあった。まず挙げられるのが、マメ科植物の中で多く使われているエビスグサである。これは、一般的には種子を便秘に用いるが、戸馳島ではエイやオコゼ、ムカデ、ハチなどに刺された時、葉をすり潰して患部に直接擦り込むという使われ方をしていた。この島では漁業が盛んであり、漁師の中には漁船でエビスグサを栽培し、毒のある生物に刺された際すぐに葉を患部に擦り込むようにしている人もいる。この使われ方は、戸馳地域が海に近いことに起因すると考えられる。また、戸馳島にはヒガンバナが群生しており、根をすり潰し、ヒマシ油と混ぜ、患部に小麦粉と一緒に張り付けることで膝の痛みなどに使われる。ヒガンバナは戸馳島のほかの三角にはあまり生えていないことから、この地方においては戸馳島独特の民間薬となっていると考えられる。このように、今回の調査では、珍しい使われ方をしている民間薬がいくつかあった。

前回は、キク栽培がおこなわれている不知火地区でキクの利用が特徴的であったが、今回の調査でも、エビスグサのような特徴的な植物の利用が聴取された。地域の人々の身近にある植物が民間薬として用いられ、生活に密着して人々の活動を支えていたこと、地域の風土や植物の育成の状況が利用実態に反映されていることが予想される。身近にある植物をうまく活用し生活にとりいえる知恵には大変感銘を受けた。薬用に用いる部位は、図 5 のとおりであり、葉を用いる例がほぼ半数を占めた。

このような調査結果が、今後の地域活性化や新規薬物の開発のヒントとなることを期待したい。

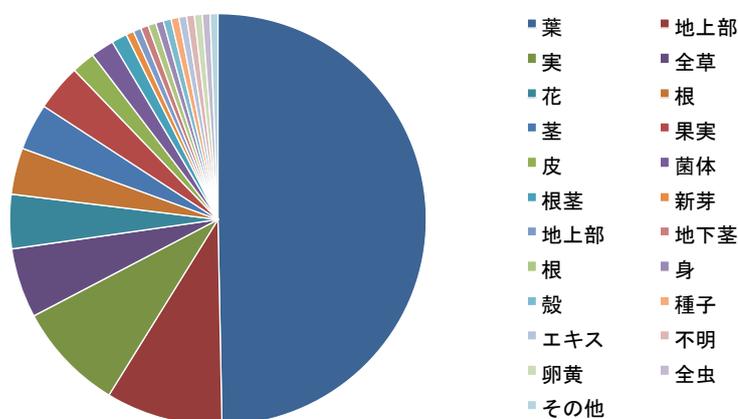


図 5 薬用に用いる部位の割合

小括

今回は、海辺の地域を中心に調査を行った。

平成 21 年度に調査した不知火町大見地域も、海岸線に位置するが、農業が主体の地域であり、菊の花を 30 年以上前から栽培し、この小菊を薬用として用いている地域である。一方、今回調査を行った三角町戸馳島は漁業が盛んな地域であり、毒を持つ魚の被害にあったときに、エビスグサの種子を用いるのは大変興味がある。また、同様に陸上の毒虫であるムカデ、ハチなどの被害の時もエビスグサを用いていた。戸馳島地区では、他にも、ヒガンバナの塊茎と、トウゴマ（ヒマシ）の種子を同量すり鉢ですりつぶし、布に伸ばして土踏まずに貼るという民間療法を用いていた。これにより、膝の水が抜けると伝えられており、他の地域では、腹水が抜けるという報告もある。そのほかには、昨年の調査と大きな差は無かった。

海岸から少し入った郡浦地域では、水田、畑のあぜに、ゲンノショウコ、ドクダミなどの薬草が少なかったが、除草のせいだろうか？小学生の学習として、サトウキビから黒砂糖を作ることを行っていた。

若い人で民間薬を活用している人は少なかった。

宇城市での 2 回にわたる調査で、興味を引いた薬用植物は、1) カラタチ（豊野）、2) キク（不知火）、3) エビスグサ（戸馳島）、4) ヒガンバナ+トウゴマ（戸馳島）であった。

2. 地域ごとのまとめ

○戸馳島

調査人数 …… 21人

調査民間薬数 …… 31種

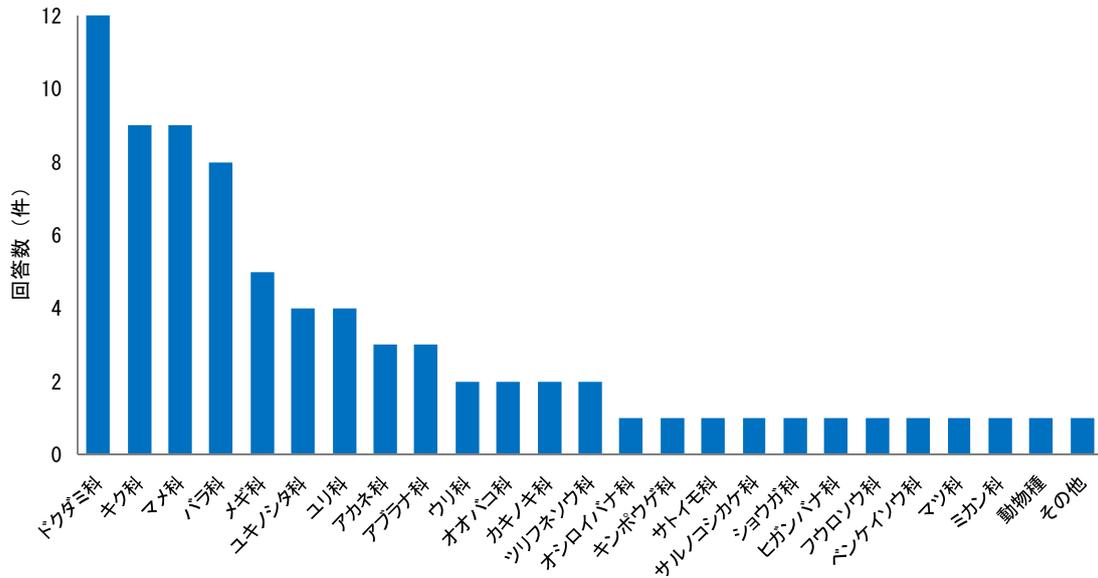
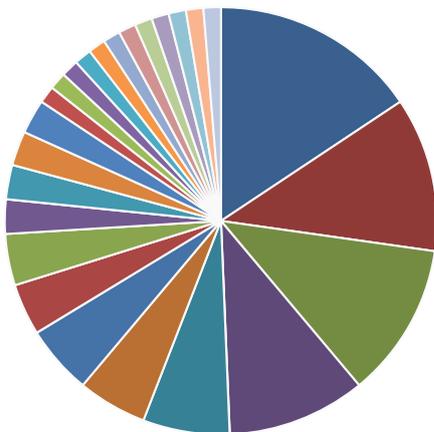


図6 戸馳島における民間薬の動植物分類と回答数

その他；海藻、動物種；タテ貝の殻

A 科別の割合



- ドクダミ科
- キク科
- マメ科
- バラ科
- メギ科
- ユキノシタ科
- ユリ科
- アカネ科
- アブラナ科
- ウリ科
- オオバコ科
- カキノキ科
- ツリフネソウ科
- オシロイバナ科
- キンポウゲ科
- サトイモ科
- サルノコシカケ科
- ショウガ科
- ヒガンバナ科
- フウロソウ科
- ベンケイソウ科
- マツ科
- ミカン科
- 動物種
- その他

B 種別の割合

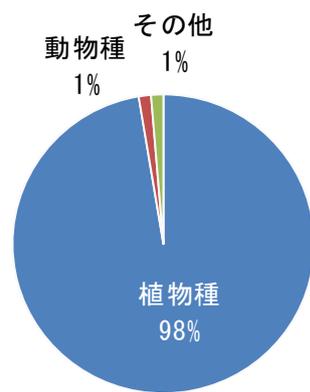


図7 戸馳島における民間薬の種類別利用割合

気づいたこと

- ・ 海に近いので、もっと海のものを使っているかと思いきやあまりなかった
- ・ アロエもあまり使われていなかった
- ・ 皮膚科（切り傷やアトピーなど）に用いるものが多い
- ・ 海に近いのでエイなどに刺された時の対策がある

○郡浦地区

調査人数 …… 23人

調査民間薬種 …… 36種

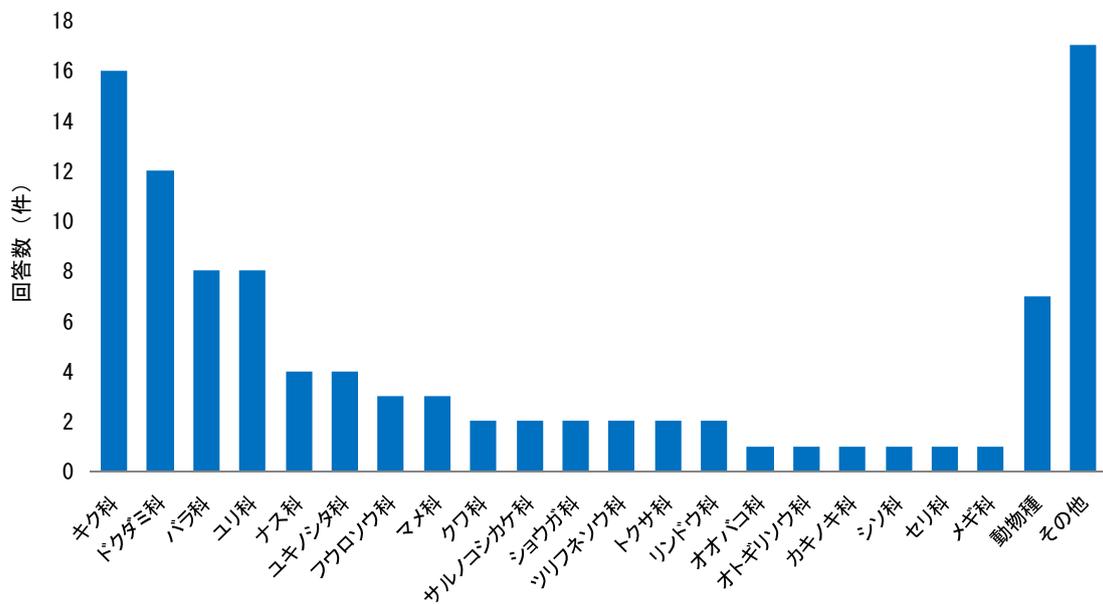
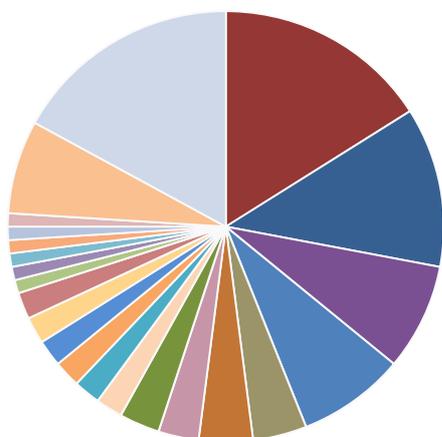


図8 郡浦地区における民間薬の動植物分類と回答数

その他；鉱泉(8)、ゲカタワシ(3)、タヅ(3)、油揚げ(1)、アンモニア(1)、紫の実の雑木(1)

動物種；マムシ(3)、白い虫(1)、クロヘビ(1)、アカムカデ(1)

A 科別の割合



- キク科
- ドクダミ科
- バラ科
- ユリ科
- ナス科
- ユキノシタ科
- フウロソウ科
- マメ科
- クワ科
- サルノコシカケ科
- ショウガ科
- ツリフネソウ科
- トクサ科
- リンドウ科
- オオバコ科
- オトギリソウ科
- カキノキ科
- シソ科
- セリ科
- メギ科
- 動物種
- その他

B 種別の割合

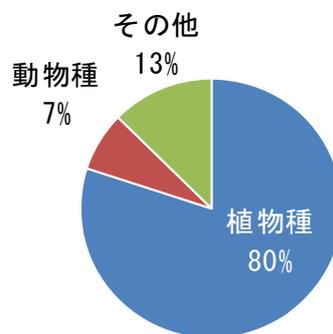


図8 郡浦地区における民間薬の種類別使用頻度

気づいたこと

- ・ 動物種が多かった
- ・ 一般的なものが多かった
- ・ この土地に湧いている鉱泉が利用されていた
- ・ 鉱泉を飲んでみたが苦くて飲みにくかった。それを利用しているということは飲みなれているのかと思った

○小括

戸馳島、郡浦地区に共通してみられるのはドクダミ科、キク科、バラ科植物由来の民間薬であった。ドクダミ科の民間薬の内訳はいわゆるドクダミ(生薬・十薬)のみであった。回答して下さった皆さんの認識として家庭の常備薬的な薬草であったが、最近では使うことが減多になく、あくまでも昔の記憶としての存在であった。戸馳島では至る所で観測されていたドクダミだが、郡浦地区においては確認することが出来なかったのは雑草として取られてしまっている可能性が高いのではなかろうか(農薬の影響か?)。戸馳島のキク科植物の内訳がヨモギの葉のみであるのに対して、郡浦地区では、ヨモギの根やオニアザミの根

を用いる例がみられた。これは、郡浦地区が戸馳島 9 例の倍近くの 16 例のキク科植物の報告があることからと推測されるが、「根」を掘り上げて使うのは、郡浦地区が地理的に内陸で農業が主産業であることあることも影響しているかもしれない。バラ科植物の内訳は、戸馳島ではウメの実、ビワの葉、サクラの樹皮であった。郡浦地区ではウメの実、ビワの葉、モモの葉、ヘビイチゴの実であった。戸馳島で調査したサクラの樹皮に関連して、桜皮エキス・ブロチンは第一三共から医薬品として売られている。桜皮エキスの原料にもなるサクラの樹皮が民間薬として用いられていた実例を聞くことが出来たのは貴重と考える。郡浦地区で調査したモモの葉はビワの葉と同様の使い方をしようであった。ビワの葉、モモの葉は健康茶としても最近市販されていることもあるので、実際に使用されていた例を聞いて興味深く感じた。

戸馳島で特徴的だったのがマメ科植物のハブソウである。戸馳島は栽培に適しているという情報が有った。ハブソウの種子を煎って作るハブ茶を健康のために飲んでいる家庭が多くみられた。真偽の程はわからないが、ハブ茶を飲み続けていると蚊に刺されてもかゆくならないという話があった。また、戸馳島では海に近いことから植物だけでなく海藻や貝殻も民間薬として用いていた。

郡浦地区で特徴的な民間薬は動物由来のものであった。ハブやマムシ、ムカデや何かの幼虫(白い虫)を利用していた。これらの動物とは、水田や畑作業の際に出くわすことが多いものと予想される。また、金桁の鉱泉が健康に良いものとしてあげられていた。また、サルノコシカケ(生薬・霊芝)が調査できたのは、代々、家伝薬を製造されていた家系である中山典子様の情報であり、一般的な民間薬ということではないかもしれないが、貴重な記録である。家伝薬のノウハウは失われつつあり、記録して後世に是非とも残して頂きたい。

3. 効能・効果ごとのまとめ

ここでは、戸馳島および郡浦地区にて得られた 175 件の回答について、利用の目的となる疾患や症状を基に分類し、考察を加えた。

今回得られた民間薬が治療対象とする疾患あるいは症状を大別すると図9および表3の通りであった。

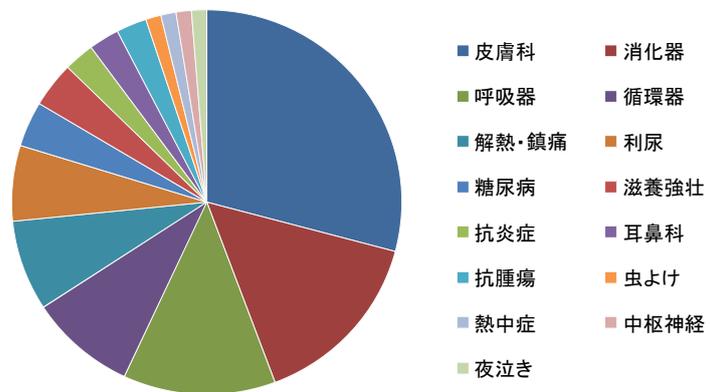


図9. 民間薬が治療対象とする疾患の分類

表3. 戸馳島および郡浦地区での調査で得られた民間薬が治療対象とする疾患の分類

疾患種類	民間薬品目
皮膚科	23
消化器	12
呼吸器	10
循環器	7
解熱・鎮痛	6
利尿	5
糖尿病	3
滋養強壮	3
抗炎症	2
耳鼻科	2
抗腫瘍	2
虫よけ	1
熱中症	1
中枢神経	1
夜泣き	1
計	79

今回の聞き取りで得られた 175 件、79 品目のうち 63 件 33 品目は外用薬であり、外傷、火傷および虫刺されなどに用いられているものであった。これは、全体の約 4 割を占めており、外用薬が多かったことは、今回の調査の大きな特徴である。次いで、消化器系、呼吸器系および循環器系の疾患への適用が多く、これら 4 種の適用だけで全体の 7 割を占めていた。

以下に、調査で得られた民間薬の品目を適用される疾患ごとに分類して記し、考察を加える。

○皮膚科系

外 傷： ヨモギ、クチナシ、ドクダミ、アロエ、ゴショウ、マムシ、クコ、チドメグサ、海藻（具体的品目名不明）

抗炎症： エビスグサ、ホウセンカ、ドクダミ、クチナシ、ヘビイチゴ、ビワの葉、サトイモの茎、シロナンテン、油揚げ、尿

抗 菌： ドクダミ、オオバコ、ホウセンカ、オシロイバナ、モモの葉、鉾泉

やけど： アロエ、ユキノシタ

今回の調査では、外傷など目に見える傷に対してドクダミ、アロエなど比較的良好に知られる植物が使用されていることがわかった。ドクダミは生薬名で十薬と呼ばれ、様々な薬理作用をもつが、その成分であるデカノイルアセトアルデヒドには強い抗菌活性があることが知られている。今回の調査では、ドクダミに関する回答は全部で 26 件あったが、そのほとんどは汗疹やおできなどの皮膚疾患への適用であり、この抗菌活性を期待したものと考えられる。

一方、アロエも日本薬局方に掲載される生薬であり、昔から「火傷にはアロエ」と言われるほどよく知られた薬用植物である。抗炎症、瀉下および健胃作用など様々な薬理活性が知られているが、意外にも、今回の調査ではわずかに 2 件の回答で、いずれも火傷などの外用適用のみであった。全国的によく知られているアロエが本地域ではむしろあまりポピュラーではないというのは面白い結果であった。

その他、桃の葉、オオバコなども少ないながら使用されていた。またエビスグサについても、一般にハブ茶として内服することが一般的だが、ムカデ、クラゲあるいはエイなどに刺されたときの解毒剤として外用するとの回答が数件あったことは、比較的ユニークな使用法と考えられる。

○消化器系

腹の不調： ゲンノショウコ、ウメ、ドクダミ、鉾泉、ユキノシタ

健 胃： 鉾泉、アロエ、マムシ、ヨモギ、オニアザミ、ウコン

便 秘： アロエ

痔 ： イチジク

肝 臓： アロエ、ウコン

ゲンノショウコは腸粘膜表面に作用して不溶性の皮膜を形成することにより、腸粘膜の保護作用を示すことがよく知られている。また、アロエは、その成分で配糖体のバルバロイン（アロイン）が小腸で吸収、加水分解され、アグリコンとして大腸腔に分泌されて、アウエルバッハ神経叢を刺激する。これにより大腸の蠕動運動が促進され、瀉下作用を示す。一方、ヨモギは食物繊維を多く含んでおり、整腸作用を持つほか、胃腸の潰瘍および出血にも効果を示す。また、成分のタンニンには解毒作用もあり、全国的に消化器系全般に広く用いられている。ウコンは肝臓の胆汁分泌を促進し、解毒促進作用を有するが、この適用は伝統的なものというよりも、現代のマスメディアによる情報に起因しているのではないかと考えられる。

○呼吸器系

風 邪： ダイコン、ネギ、ショウガ、センニンソウ、桜の樹皮

抗炎症： ナンテン、エビスグサ

結 核： 黒へび

喘 息： ナンテン

ダイコン、ネギおよびショウガは古くから風邪の治療に広く用いられている民間薬である。これらの薬物に抗ウイルス作用があるか否かは明らかでないが、体を温める効果があるとされ、一定の効果を期待できる。

一方、ナンテンはのど飴の材料としても有名な植物で、そのアルカロイド成分であるドメスチンに気管支平滑筋拡張作用、咳中枢抑制作用、殺菌および鎮痛作用があることが分かっており、喘息に広く用いられている。

○循環器系

高血圧：柿の葉、ドクダミ、エビスグサ、ユキノシタ

血行促進：ヨモギ、サルノコシカケ、鉱泉

○解熱・鎮痛

ビワの葉、ユキノシタ、梅干し、ヒガンバナ、タテ貝の殻、鉱泉

ユキノシタの葉はコジソウと呼ばれ、一般にその煎液には解熱・鎮痛作用があるとされている。

ビワの葉（ビワヨウ）、ヒガンバナは生薬としてよく用いられるものの、解熱・鎮痛としての適用はあまり見られないように思われる。また、タテ貝の殻については、近い生薬として、カキの殻（ボレイ）があるが、解熱・鎮痛効果については見られない。

○利尿

ニガウリ、ドクダミ、ニワトコ、ゲカタワシ、オトギリソウ

ツルレイシ（ニガウリ）ではモモルディンという成分に、ドクダミではクエルシトリンという成分に利尿効果があることが知られている。また、オトギリソウは西洋では古くから利尿等に利用されている。身近なものに利尿効果が期待できるものが多くあることが分かった。

○糖尿病

ニワトコ、鉱泉（炭酸泉）、タマネギ

ニワトコは利尿薬として利用されているが、糖尿病に効果があるか否かは、余り知られていない。タマネギの抗糖尿病作用については、最近、テレビの健康番組などで取り上げられているようで、その影響が強いのかも知れない。

○滋養強壮

ニンニク卵黄、ドクダミ、クコの実

○抗炎症

クチナシ、ダイコン、オオバコ

オオバコは種子（シャゼンシ）、葉（シャゼンソウ）を共に用いており、特にシャゼンシ

に消炎作用が認められる。クチナシは骨折に対して用いられているが、打撲、挫傷に対する適用も広く見られ、こちらも同様のものと思われる。

○耳鼻科系

ユキノシタ、ヨモギ

ユキノシタは古くから「ミミダレグサ」とも呼ばれるように、慢性中耳炎に絞り汁が使われることは有名である。今回の調査でも2件の回答があった。

○抗腫瘍

サルノコシカケ、ビワの葉

○虫よけ

ヨモギ（燃やす）

○熱中症

エビスグサ

○中枢神経系

フキの葉

小括

今回の民間薬調査の結果では、外傷に対する適用を始め、外用するものが非常に多かったことが特徴として挙げられる。これは、民間薬の性質をよく反映したものと言える。というのも、民間薬は自覚できる症状を、医師の診断を受けずに緩和するために用いられるのが一般的である。従って、高血圧、高血糖、ガンおよび中枢神経疾患などのように医療機関での診断を介さなければ判明しない疾患では、伝統的に用いられてきたと考えるのは難しい。恐らくは、テレビやインターネットなど現代のマスメディアを介した情報をもとに近年になって普及したものや、ドクダミ、ヨモギ、アロエ、サルノコシカケなどのように「万能薬」のイメージのある薬物が現代医学的に適用拡大されたことがその背景にあると考えられる。このような新しい民間薬の中にはその効果が実証されていないものも含まれていると思われるが、使用経験が蓄積され、真に効果のある新しい民間薬が生まれれば興味深い。

第1回と第2回の調査を総合して

第1回調査は、2009年7月19日に実施し、今回のちょうど1年前であった。調査対象者数、年齢層、男女比、聞き取り調査数等、今回とほぼ同じであり、2回の調査を総合すると、宇城市の東から西まで、また、山間の地区から海沿いの地区まで広く調査したことになる。そこで、第1回と第2回の調査結果を総合して、検討・考察してみたい。

まず、調査地区毎の比較からは、以下のような特徴が見えてきた。

1. 全国的に知られている、ドクダミ、アロエ、ヨモギが上位を占めた。
2. キクカ(菊の花)が不知火大見地区で抗腫瘍を目的に用いる民間薬として注目されていることがわかった。試飲してみたところ非常に苦いが、健康のためということで定期的に飲まれているのが印象深かった。サンプルも提供して頂いた。
3. 地域独特の名前として、「キジンソウ」(ユキノシタ科)が調査した全地区に頻度の差はあれ共通してあげられていた。民間薬の多くは胃腸薬的なものが多い中で、使用法が耳の病気、ということも独特である。神社や仏閣の伝承薬が何らかのかたちで受け継がれているのかもしれない。
4. 戸馳島で特徴的だったのがマメ科植物のエビスグサ(ハブソウ)である。戸馳島は栽培に適しているという情報が有った。エビスグサの種子を煎って作るハブ茶を健康のために飲んでいる家庭が多くみられた。継続して飲んでいると蚊に刺されてもかゆくないとのことで、効果が本当であれば地域の特産品として考えて良いかもしれない。
5. 郡浦地区では動物由来の民間薬が特徴的であった。また、金桁の鉱泉が鉄分を含み貧血など健康に良いものとしてあげられていた。
6. サルノコシカケ(生薬・霊芝)が調査できたのは、代々、家伝薬を製造されていた家系である中山典子様の情報であり、一般的な民間薬ということではないかもしれないが、貴重な記録である。家伝薬のノウハウは失われつつあり、記録して後世に是非とも残して頂きたい。
7. 調査に答えて頂いた方の年齢は70歳以下の方が多く、今後はもっとご高齢の方にもお話しがきけれと良いのではと思った。ただ、一般の家庭訪問では難しいので、老人福祉施設の訪問などを訪問すると良いかもしれない。
8. 家伝薬や伝承薬の存在が調査からわかってきたのは収穫であった。今後は、神社や地域の古文書の研究をされている方にもご協力頂き、対象を絞って調査するのも良いのではないかと考えられる。

次に、効果・効能の点からまとめると、以下のようになった。

2回に渡り宇城市で実施した民間薬調査の結果のうち、その適応症あるいは使用にあたり期待する効果が明らかなものについてその特徴を比較検討し、本地域で民間薬が使用される、またはされてきた疾患や症状の特徴を調べてみた。2年分の回答の全てを適用ごとに集計したものを図10に、また2009年度と2010年度のデータを比較したものを図11に示す。

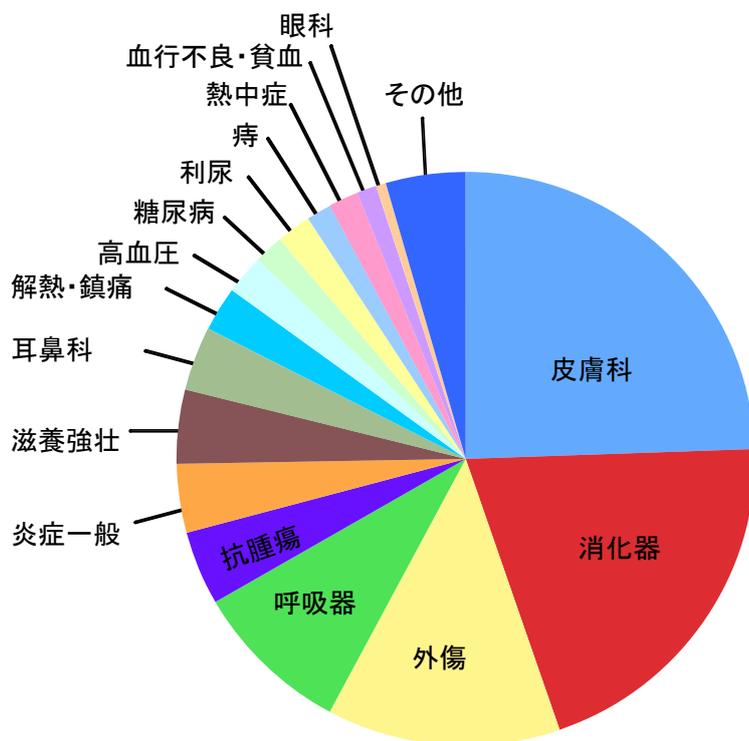


図10. 宇城市での民間薬調査の回答で得られた適応疾患（件数）

2年分の聞き取り調査により得られた回答のうち、その適用症や期待する効果の明確であったものは、2009年が125件、2010年が149件で、計274件であった。これのうち、虫刺されや湿疹など、皮膚の症状および疾患に使用するものが、67件（全体の約25%）と最も多く、これに次いで、腹痛や下痢・便秘などの消化器症状の改善を期待するものが55件（全体の約20%）と多かった（図10）。この皮膚科疾患への適用が最も多く、消化器系がこれに続くという傾向は2009年および2010年のどちらの調査でも同様であった（図11）。

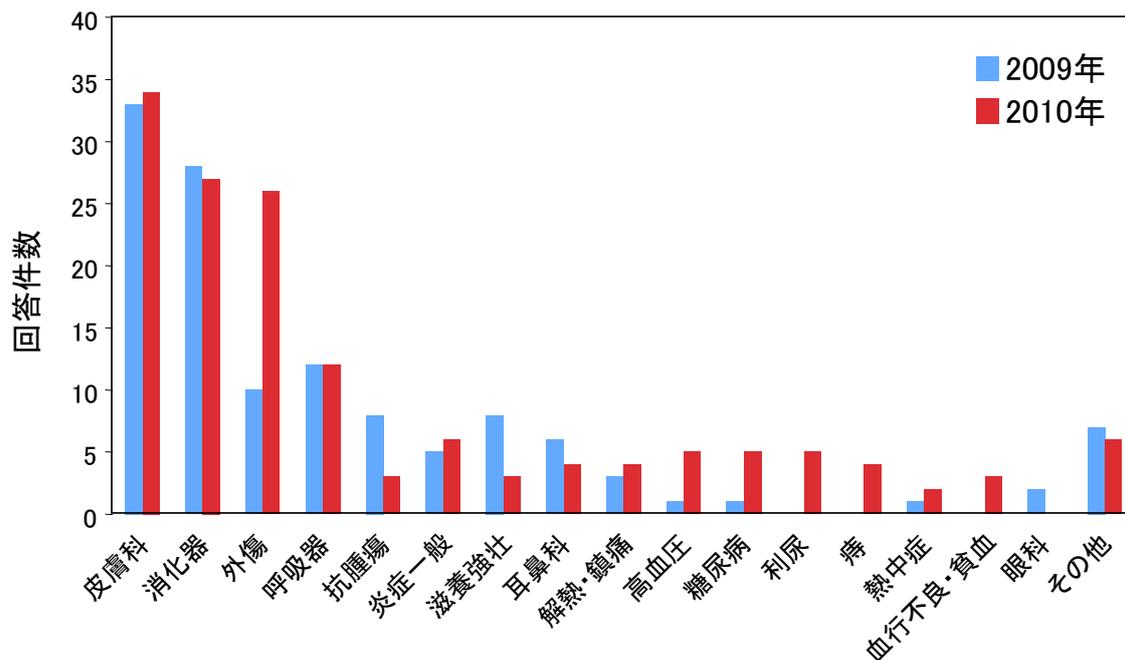


図 11. 2009 年および 2010 年の民間薬調査データの適用症ごとの比較

1) 皮膚科の症状に用いられる民間薬

皮膚のトラブルに使われる民間薬の使用目的は、毒虫や毒魚に刺された際の解毒もしくは炎症治療に用いるものが最も多く 24 件（2009 年 11 件，2010 年 13 件）と最も多く，次いで，汗疹やおでき，ニキビ等の治療を目的とする主として抗菌作用を期待すると考えられるもので 21 件（2009 年 10 件，2010 年 11 件）であった。その他では，アトピー性皮膚炎など主として抗炎症効果を期待したものが 11 件（2009 年 7 件，2010 年 4 件），火傷の治療が 5 件（2009 年 1 件，2010 年 4 件），美容目的などのその他の目的が 4 件（2009 年 3 件，2010 年 1 件）であった。このように皮膚疾患に対する適用には，件数および使用目的の両面で 2 度の調査の間に大きな違いはないと考えられた。

皮膚科の症状に用いられる民間薬：

アサガオ，アロエ（8 件），アンモニア，ウマ油，オオベコ，カイスイ，カラタチ（2 件），ケツメイシ（7 件），サトイモ（3 件），塩水，シマツリコン，シロナンテン，ダエキ，ドクダミ（20 件），ドクダミ+ゲンノショウコ+シソ，ドクダミ+シソ，ビワ，ヘビイチゴ，ホウセンカ（3 件），マムシ，ムカデ，モクサク，モモ，ユキノシタ（5 件），ヨモギ（2 件），鉾泉，油揚げ

皮膚科の症状を改善するために用いられる民間薬は上記の 27 品目が回答として得られた。これらの中で、ドクダミはシソなどとの組み合わせを含め、22 件の回答があり、毒虫、炎症、抗菌と全ての適用例があった。ドクダミは 2009 年、2010 年ともに多くの回答が得られ、皮膚科疾患が最も件数が多かったのは、このドクダミの皮膚疾患への応用が、よく知られていることに依存するのかもしれない。

2) 消化器系の症状に用いられる民間薬

消化器系に応用される民間薬の主な使用目的は、腹痛 11 件(2009 年 7 件, 2010 年 4 件), 下痢止め 11 件 (2009 年 7 件, 2010 年 4 件), 便秘治療 7 件 (2009 年 3 件, 2010 年 4 件), 健胃 20 件 (2009 年 9 件, 2010 年 12 件), 潰瘍 2 件 (2009 年 2 件, 2010 年 0 件), 肝臓病 4 件 (2009 年 1 件, 2010 年 3 件) であった。用いられる品目は下記の 27 件で、ウメおよびゲンノショウコは両年とも複数の回答があった。特徴的であったのは 2010 年の郡浦地区の鉾泉が 4 件の回答であり、この地区独自の療法と考えられ興味深い。

消化器系の症状に用いられる民間薬：

アズキ、アロエ (3 件)、イモ、ウコン (4 件)、ウメ (8 件)、エビスグサ、エンメイソウ (2 件)、オニアザミ、カキトオシ、カリン、キク (2 件)、キハダ、キリンソウ、クサキ、クマノイ (2 件)、ケツメイシ (2 件)、ゲンノショウコ (6 件)、サツマイモ、センブリ、ドクダミ (3 件)、ネムリギ (ネムノキ)、ヒキオコシ (2 件)、マムシ、ユリクズ、ヨモギ、ロウカクソウ、鉾泉 (4 件)

3) 外傷に用いられる民間薬

外傷に用いられる民間薬は、36 件の回答があったが、そのうち 2009 年が 10 件、2010 年が 26 件と、戸馳島および郡浦地区の方が 2 倍以上の回答があった。用いられる品目としては下記の 14 品目であったが、圧倒的にヨモギ (17 件) が多く、ヨモギの創傷治療への適用は広く知られていると考えられた。両年の品目数を比較すると、2009 年は 4 品目、2010 年は 11 品目と戸馳島および郡浦地区では件数だけでなく、品目数も多いのが特徴と考えられた。品目としては、ガイヨウが 2010 年だけで得られた回答であり、本地区での特徴的な応用かも知れない。

外傷に用いられる民間薬：

ガイヨウ (5 件)， クコ， クス (2 件)， クチナシ， ゴシヨウ， チドメグサ， ドクケシ， ドクダミ (2 件)， ニラ， ハンピ， マムシ， ヨモギ (17 件)， ロカイ， 海藻

4) 腫瘍に用いられる民間薬

腫瘍に効果があると考えられている民間薬は件数としては 11 件であったが， そのうち 8 件が 2009 年の調査での回答であった． 内訳としてもキクの花が 6 件と最も多く， その全ては 2009 年の調査での回答であり， 不知火， 豊野地区に特徴的な民間薬と考えられ興味深い．

腫瘍に用いられる民間薬：

キク (6 件)， サルノコシカケ， ビワ， ドラゴンフルーツ， ウクシノスギナ

4) その他の民間薬

その他の疾患に用いられる民間薬の品目を下記にまとめる． これらの品目種は 2009 年および 2010 年の調査結果に大きな違いはないと考えられた．

呼吸器系に用いられる民間薬：

アンズ， ウメ， カリン， サクラの木， ショウガ， ダイコン， ダイダイ， ツタ (センニンソウ)， ドクダミ， ナンテン， ネギ， バイキセイ， 黒へび

解熱鎮痛に用いられる民間薬：

ドジョウ， ウメ， カラタチ， ビワ， ユキノシタ， 鉾泉

炎症 (一般) に用いられる民間薬：

ウツボグサ， マツ， ヒガンバナ， マムシ， カキドウシ， シャゼンシ， シャゼンソウ， ダイコン， セキサン， タテ貝の殻， サンシシ， クチナシ

耳鼻科に用いられる民間薬：

ユキノシタ

高血圧に用いられる民間薬：

カキ， ケツメイシ， ドクダミ， ユキノシタ

滋養強壯に用いられる民間薬：

ウコン， ジコツビ， クコシ， ドクダミ， 卵， アロエ， ニンニク， ウメボシ， アロエ， マムシ， ハチ， ハトムギ

糖尿病に用いられる民間薬：

タズ（ヒュウガトウキ）， タマネギ， 鉾泉

痔に用いられる民間薬

イチジク， ネズミ

利尿のために用いられる民間薬：

オトギリソウ， ゲカタワシ（？）， ゴーヤ， タズ（ヒュウガトウキ）， ドクダミ

貧血・血行促進に用いられる民間薬：

鉾泉， サルノコシカケ， ヨモギ

眼科の症状に用いられる民間薬：

ブルーベリー， ニンニク， ショウガ

熱中症に用いられる民間薬：

ケツメイシ， ボケ

その他の症状改善に民間薬：

ユズ， ソーダ， トウガラシ， ハコベラ， ニラ， ニンニク， スギナ， ヨモギ， ショウガ， ヨモギ， フキ， キュウリ， ナンテン， カキ

2年分の調査結果を，その適用という視点から比較すると，全体的には大きな違いはないと思われた．特に，皮膚疾患および外傷への適用が多く，これらはいずれもほとんどが塗布すなわち患部への適用であり，両年とも外用で用いるものがポピュラーであることが分かる．

一方、詳細な違いを抽出すると、2009年の調査では特にキク花を腫瘍の治療に用いるとの回答が特徴であり、一方、2010年の調査結果では外傷に用いる回答件数および品目数が多いのが特徴と言えよう。その他では、2010年の調査の方が高血圧や糖尿病などの生活習慣病への適用例が多いのが特徴と思われる。2009年の腫瘍、2010年の生活習慣病といった使用法は、いずれも古くから用いられる伝統的なものかどうかは、さらに詳細な調査が必要と思われるが、近代的な情報が広がったとしても、それぞれの地区での独自のコミュニティで広がっていると推定される。

2回に渡り、一般の家庭をアポイントメントもなく突然訪問させて頂いたにも関わらず、多くの方々から親切なお答え頂くことができ、大変感激している。最初は学生も要領を得ずご迷惑おかけしたことが多かったが、後半になると、皆様の温かさに質問する勇気を与えられ、上手く会話できるようになった。今回の試みは、ただ単に失いかけている民間薬についての情報を集めたというだけでなく、コミュニケーションの大切さを学ぶ良い機会となった。関係各位に心より御礼申し上げます。

調査に出てきたおもな植物

		
アロエ (ベラ)	イチジク	ウコン花
		
ウコン地下部	ウメ	エビスグサ
		
オオバコ	ガイヨウ	カキ
		
キジンソウ	クコ	クチナシ



ゲンノショウコ



サルノコシカケ



シロナンテン



スギナ



ダイコン



ドクダミ



ナンテン



ニワトコ



ビワ



ヘビイチゴ



ホウセンカ



ヨモギ

第 2 回 地域伝承民間薬調査報告書

©2010

平成 23 年 3 月 22 日 発行

編集・発行 熊本大学薬学部
エコファーマ推進委員会

印刷・製本 (有)米田印刷
〒860-0863 熊本市坪井 6 丁目 21-15
TEL 096-345-0150
<http://www.yoneda-print.co.jp>

内容の一部または全部の無断複写・転載を禁ず。